

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

千葉県-Düsseldorf市の姉妹都市 合意書調印式に参加して -千葉県日独協会会長 金谷誠一郎-

1月末に、千葉県が14年間にわたり交流を積み重ねて来られたデュッセルドルフ市と姉妹提携を行うとのニュースを知り、隔年で同市の日本デーを皮切りにドイツ視察旅行を実施している当会は、是非とも姉妹提携合意書署名式にオブザーバーとして参加させていただきたい旨、県庁国際課をお願いして許可をいただき、橋口名誉会員と2人で行って参りましたので、以下報告致します。

5月25日(土)のデュッセルドルフは朝から晴天に恵まれ、ケーニヒスアレーの街路樹の緑が目染み日となりました。私は橋口名誉会員と共に9:30過ぎにホテルを出発、地下鉄で5分の市庁舎に向かいました。駅からは、店を開け始めたレストランが並ぶアルトシュタットを通り抜けると市庁舎前の大広場に出ましたが、道を歩く人の姿も少なく、「嵐の前の静けさ」状態。

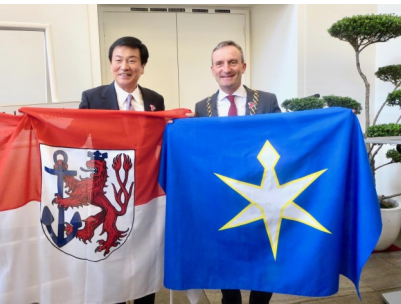
しばらく広場を囲む景色をカメラに収めている内に、市庁舎のドアが開かれて、姉妹提携合意書の署名式が行われる2階の来賓ホールへ。ホール入口のテーブルには、左手に千葉県、右手にデュッセルドルフ市の旗を持ったチーバ君のバッジが置かれていて、早速背広の襟に付けました。会場には、磯正人総領事、戸田真介首席領事、山口徹日本クラブ会長(ドイツ三菱商事社長)、奥村彰規デュッセルドルフ日本商工会議所会頭(日本製鉄欧州事務所長)も集まっておられました。

暫くして、11:05より姉妹提携書署名式が始まり、まずガイゼル市長が千葉県と姉妹提携合意書署名に至った経緯を説明、次いで森田知事が長年にわたり希望して来たデュッセルドルフ市と姉妹提携出来る喜びを述べられました。次いで市長、知事が姉妹提携合意書にそれぞれ署名されて交換、お二人と千葉県議会を代表して吉本充前千葉県議会議長と3人で記念撮影が行われ、更に記念品として、千葉県旗とデュッセルドルフ市旗の交換が行われました。このセレモニーには、独日協会アム・ニーダーラインのマイト事務局長に付き添われたチーバ君も参加、会場を盛り上げました。

最後に「ゴールデンブック」に森田知事、吉本氏が記帳され、参加者全員でのレセプションに。



署名式 (左から) 森田知事、ガイゼル市長、吉本前県議会議長



千葉県旗とデュッセルドルフ市旗の交換の様子

12:00過ぎには、市庁舎横の「日本デー」会場に移動し、この日の為に作られた舞台上に市長、知事、磯総領事、山口日本クラブ会長等が登壇して、千葉県とデュッセルドルフ市の姉妹提携合意書が署名されたことを発表されました。その後、森田知事とガイゼル市長は、千葉県のブースに移動、折り紙や立ち寄ったドイツ人の希望者の名前を毛筆で漢字に変換してプレゼント、大変喜ばれている様子を見物。夕方からは、市庁舎3階の部屋で立食形式で軽食をいただきながら歓談、23:30からライン川の上空に豪華な花火が次々に打ち上げられて、ライン川沿いの遊歩道に集まっていた沢山の人達から大きな歓声が上がっていました。かくして記念すべき今年のヤーパンタークは無事終了しました。



千葉県ブースにて (左から) 磯総領事、ガイゼル市長、森田知事、橋口名誉会員、金谷会長、吉本前県議会議長



来場者でにぎわう千葉ブース前

デュッセルドルフ日本デーに関する小史

ここで、橋口名誉会員(ドイツ駐在23年、内デュッセルドルフ駐在3度は、1967~72年、1990~1993年、1993~2002年で合計17年。最後の9年間は、日本クラブ事務総長として、日本デーの開催についてもデュッセルドルフ市役所との交渉に尽力)が2016年に作成した資料と千葉県のホームページを参考に「日本デーに関する小史を簡単に纏めてみたいと思います。

●第2次世界大戦後の日独関係はデュッセルドルフへの日本企業の大進出による経済交流が際立った特徴となった。戦後日本の経済復興は炭鉄重点の傾斜生産政策であり、奇跡の復興を遂げたドイツルール重工業の技術、設備機械の導入、輸入が日本企業のターゲットとなり、ルールを中心とするデュッセルドルフへの進出となった。まず、1952年 大倉商事、三菱商事が駐在事務所開設。

1954年 日本人会第1回会合 日本人25名。1964年 日本クラブと改名、社団登録 法人会員63社 個人会員683名。1966年 デュッセルドルフ日本商工会議所設立、領事館が総領事館に昇格。1970年法人会員111社、個人会員1296名。1975年 ルルトパークに日本人社会の寄付による日本庭園開園。1980年 法人会員226社 個人会員3559名。1983年 第1回日本週間。大曲花火、桜苗木1000本寄贈、東山魁夷講演会等100以上の行事が開催された。1988年 デュッセルドルフ市制700年を記念し日本人社会の寄付により「デュッセルドルフ奨学基金」が創立された。

1992年 法人会員500社、個人会員7000名超。1993年 第2回日本週間 神輿・盆踊り・花火・浜松大鳳・歌舞伎、天皇皇后ご来臨。1994年 ハブル崩壊、会員激減。1999年 12月「ドイツにおける日本年」ベルリンでオープニング。2000年9月デュッセルドルフでフィナーレ行事(第3回日本週間) 神輿、盆踊り、花火。2001年 日本年余韻行事(日本デーの始まり)

2002年 第1回日本デー開催。2004年ヨアヒム・エルヴィン市長来県、堂本知事と会見。

2005年 相互交流開始。2007年 千葉県が「日本デー」に出展し、県の魅力を発信。

以来、毎年千葉県はブースを出展し、県の魅力をPRすると共に、日本文化の紹介を行っています。

また、「日本デー」は毎年60万人以上の来場者を集め、近年はコスプレ姿の若者も多く見られます。

●独日協会 アム・ニーダーラインとの打ち合わせ

「日本デー」前日の5月24日に現地独日協会のDr.Günther Horzetzky会長を初めとする役員と夕食を共にしながら、当会が過去2度程、2人づつ研修生を受け入れて、(旅費はドイツ側負担、滞在中の費用は、当会負担) 交流した実績があり、復活の方向で当会の意向を纏め、先方に伝え交流の深化を図ることとしました。

会議通訳者への道 -青壮年部 竹内 優さん レポート-



私は今回の留学で、Konferenzdolmetschen(会議通訳)に所属しています。会議通訳学科はInstitut für Übersetzen und Dolmetschen(翻訳・通訳研究所)に属する、修士課程の学科です。

この研究所は創立以来多くの通訳者を輩出しており、通訳者に関しては、EUで活躍している会議通訳者の出身校の中で最も割合の多いのがハイデルベルク大学だそうです。

この学科では、どの学生もA言語、B言語、C言語と3つの言語を選択しなくてはなりません。通常、A言語が母語、B言語が第一外国語、C言語が第二外国語となります。選択できる言語は、ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、日本語です。A言語とB言語は両方向訳しますが、C言語はpassive Fremdsprache(聞いて理解できる言語)という位置付けなので、C言語からはA言語のみに訳出します。つまり私の場合A-日本語、B-ドイツ語、C-英語なので、①独→日、②日→独、③英→日という訳出方向の組み合わせです。

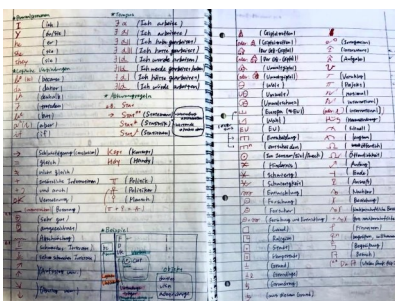
この学科に日本語が追加されたのは2009年で、日独通訳を学べる大学というのは世界中でハイデルベルク大学たったの1校のみです(日本にはどこにもありません)。私は2012年、高校3年生のときにこの学科を知り、それ以来ハイデルベルク大学で通訳を学ぶのが夢でした。

通訳といっても様々な種類がありますが、この学科では逐次通訳と同時通訳を学びます。逐次通訳というのは、スピーカーが話している最中に通訳者がメモを取り、区切りのいいところで通訳者がメモを頼りに訳出します。同時通訳は、文字通りスピーカーが話しているのほぼ同時に訳出する方法です。この場合、通訳者はブースに入り、ヘッドホンを着け、マイクに向かって話します。さらに個人的にこの学科で特徴的だと感じたのは、先学期履修していたNotizentechnik(ノートテクニック)という授業です。これは、逐次通訳でメモを取るときに使うノートテクニックです。自分の選択言語を問わず通訳学科の学生が全員履修するもので、ノートの取り方や、その際に使える記号などを学びました。

ハイデルベルク大学で教えられているノートテクニックはヨーロッパで体系づけられたものを使用しており、さらに速記記号やラテン語なども混ざっているため、日本語母語の通訳者は残念ながらあまり使えないかもしれない...と思うことも度々ありました。しかし日本語通訳者には「漢字」という強い味方がいるので、今回学んだノートテクニックで使えそうなものは活用し、漢字などと組み合わせながら、より良いノートテクニックを身につけていきたいと思えます(日本語以外の通訳者は、その一文字で音だけでなく意味も表す漢字はものすごく便利だと思うそうです。例えば、ドイツ語でgroßは「大」、kleinは「小」と、漢字であれば一文字で済みます)。



研究所外観



ノートテクニックを書き留めたノート

今までこの学科で学んで感じたことは、会議通訳学科に関してはStudium(大学での勉強)ではなくまでAusbildung(職業訓練)のような、非常に実践的な授業が展開されているということです。日本にいるとき、実際に通訳もされている先生が「通訳はスポーツだ」とおっしゃっていましたが、ここに来てようやくその意味がわかりました。6人中日本人の先生が4人、ドイツ人の先生が1人、日独ハーフの先生が1人ですが、日本人の先生方も幼少期をドイツ語圏・英語圏で過ごしたバックグラウンドがあるため、全員が日独英のトリリンガル(またはそれ以上)です。私は常に彼女と二人で通訳の授業を受けています。そのため授業はほぼプライベートレッスンで、各90分の授業は非常に密度が濃いです。



クラスメートとの月曜会議での実践風景

スピーチの定型句の暗記、大きな数を訳すトレーニング、短期記憶のトレーニング、与えられたキーワードを用い即興で短いスピーチを作るトレーニング、話の流れを予測し文章を繋げるトレーニング、シャドーイング、サイトトランスレーションなど、先生方から様々な実践的トレーニング方法を教わりました。

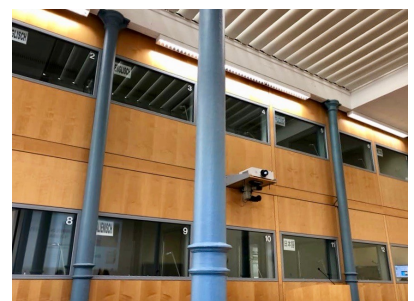
逐次通訳では、ノートテイク、文章構造(話の流れ)の把握、パフォーマンスが非常に重要になってきます。特にパフォーマンスの面に関しては、聴衆に見られているということ意識し、アイコンタクトを常に忘れないなど、同時通訳の場面ではあまり関係のない要素が絡んできます。

同時通訳では、Segmentieren(長い一文を作るのではなく、文章を細かく小出しにすること)、Antizipieren(次にどんな言葉が来るか予想すること)、Monitoring(モニタリング; 自分がどんな言葉を使って訳しているかきちんと把握すること)が重要です。同時通訳は講演者に遅れずに訳出するのが理想なので、décalage(講演者が話すタイミングと通訳者が訳出するタイミングの時差)をできるだけ短くしなくてはなりません。特に日本語とドイツ語は文構造が大きく異なり、特に日→独の場合、日本語の『動詞』が最後に出てくるまで訳出せずに待っているとスピーチがどんどん先に進み、décalageが大きくなってしまいます。

頂いたアドバイスで印象に残ったのは、逐次通訳では「敬語が正しく使えているかモニタリングすること、register(言語学における使用域)がふさわしいか気をつけること」、同時通訳では「難しい敬語を使うとこえてタイムロスになるので丁寧語(～です、ます)で十分、(ドイツ語の場合)最悪の場合文章にしないで単語を並べて簡易化すればいいので、遅れを取らないように」と言われたことで、とても対照的だなと思いました。

今学期私が履修している一つの授業にMontagskonferenz(月曜会議)という授業があります。90分の講演を、会議通訳学科の学生がドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、日本語、ロシア語に同時通訳するという授業です。外部から講演者をお招きし、学生だけでなく一般市民の方々も講演を聞くことができます。

今学期のテーマは、「経済の中心地ドイツ」。会議室には、同時通訳用のブースが12個あり、月曜会議の時には音響を調整する技術担当のスタッフも常駐します。



同時通訳用の言語別ブース

月曜会議で私が特に素晴らしいと思うのは、リレー通訳を練習できる点です。例えば講演言語がフランス語だと、まずフランス語選択の学生がフランス語→ドイツ語に訳します。その後、私たちフランス語以外の言語の学生が、訳されたドイツ語を聞いて日本語など他の言語に訳します。月曜会議は現場を想定し二人で入るため、チームワークが求められます。私たちは7～8分おきに交代して訳していますが、自分の番でない時も、相手のために数字や難しい言葉を隣でメモしたり、辞書で言葉を調べて見せてあげたりします。講演の内容も専門的で、毎回色々な分野の知識と専門用語を少しずつ学ぶことが出来るので、とてもいい経験です。学期終了まであと少しですが、最後まで気を抜かずに頑張ります。

キール大学世界経済研究所留学



ドイツと私 - 永池 克明

音楽から始まったドイツとの縁

ドイツと私との縁という意味で最も長い関係があるのは、音楽です。大学時代には、男声合唱団（メンネルコール）に所属し、ドイツ民謡、ドイツ合唱曲などを歌う機会も増え、私にとってはドイツが最も身近な国となりました。3年生の時、ベートーヴェンの第9交響曲「合唱付」を歌いますが、合唱活動は、社会人となってからも一貫して続け、現在も津田沼混声合唱団や都内の男声合唱団員として活動しています。また、千葉県日独協会会員としてドイツ軍人慰霊祭で合唱などに参加しています。

企業派遣でエコノミスト養成の研究機関に向向

大学卒業後、総合電機メーカーに入社、東京日比谷にあった本社の総合企画部に勤務しました。入社7年目にマクロ経済のシンクタンクである社団法人日本経済研究センターに向向となりました。同センターは、毎年一部上場企業から20名の若手社員を受け入れ、2年間、所属企業の業務から離れ、企業エコノミストとして必要な専門知識と実務を習得させていました。1年目は、大学の修士課程相当の座学、2年目は、景気予測実務を担当し、2年目を終えると修了証書が授与され、親元企業に戻りました。



キール留学中の筆者

ドイツ留学とキール

初めて外国に居住したのは、1976年春でした。2年間の日経センターの研修期間を終えた後、さらに同センターの海外派遣留学生（5人）の1人に選ばれ、親元企業の承認も得て企業派遣でドイツのキール大学付属世界経済研究所に留学することになりました。そして家族とともにドイツでの1年余の生活を経験することになりました。初めての海外生活は、私の人生経験の中でも大変印象深いものとなりました。

キール市は、ドイツ最北部シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の州都（人口：24万人）です。キールは、古来、ドイツ北部の都市を結んだ「ハンザ同盟」の一角を占め、海運、造船の街でありました。また、バルト海と北海を結ぶ「キール運河」があり、交通、貿易の要衝の地でもありました。シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州は、酪農も盛んでキール大学では、日本から多くの留学生が本場の酪農を学んでいました。



キール市庁舎の尖塔とコンサートホール

キール大学付属キール世界経済研究所 (Institut für Weltwirtschaft an der Universität Kiel, IFW)

留学先となったキール世界経済研究所は、ドイツ5大経済研究所の一角を占め、世界経済分野を一手に引き受けていました。当時ドイツ5大経済研究所は、ドイツ各地に位置し、それぞれの地域の強みと特徴を発揮し、経済予測にもそれを反映させていました。5大経済研究所は、毎年定期的に合同経済見通しを発表することで世界的に知られ、同時にドイツ首相の経済諮問機関でもありました。研究所の客員研究員として予測チームに属して感じたことは、色々な手

法を駆使した予測に加え、研究員による徹底した討論でした。そうした議論によるアプローチは、日本ではあまり例がなく強い印象を受けました。また、私は研究所で毎年開催される世界経済セミナー（討論は英語を使用）で日本経済や産業について発表したり、研究所のジャーナルや親元企業や日経産業新聞に投稿したりしました。



キール世界経済研究所

ドイツと日本との気候、季節感の違い

多くの場合、海に囲まれた島国である日本人にとって海外というのは視覚的・物理的にも遠い存在であり、外国の土を踏み、外国を実感する機会はありません。欧州各国の人々は、川や山を隔てて国境を接しており、橋を渡れば隣国という場合も多く、隣国の言葉や習慣も日常的に接する機会も多いと思います。

また、ドイツに住んで感じたことは、四季の移り変わりが均等に訪れる日本と違い、陰鬱な冬が長く、春夏秋が短いドイツは、潜水艦の中で生活するよう感じたこともしばしばでした。8月ごろから4月一杯、Dunkelwetter（灰色の陰鬱な天候）が続くドイツでは、古来、絵画（色彩芸術）は発達せず、音楽や哲学、論理学など精神文化が発達しました。「敷島の大和心を人問わば、朝日に匂う山桜花」という明るい匂いたつような日本の春の景色は、ドイツでは到底想像すること自体困難でした。4月のドイツは、冬真ただ中であり、灰色の世界です。雪の中からクロッカスがひっそりと顔をのぞかせるのを見た時の感動は、住んでみて初めて実感できます。こうして私とドイツとの関係は、始まりました。キールは、その序曲ともいべき最初の思い出深い街となります。



恒例の「キール週間」のヨットレース

ドイツパン研究会レポート

無形文化遺産に登録されているドイツパン。最近、ドイツ人は健康志向を大事にしてパン選びをしています。

6月21日に開かれたドイツパン研究会には、約150人が参加。ほとんどの方は、パン関連の企業の方であり、パンの商品企画をする方もおられました。研究会の会長、中村桂子氏の講演会から始まり、パン作りの実演と説明、ドイツにおける現在のパン事情のプレゼン、そして門倉多仁亜氏による料理教室と懇親会で幕を閉じました。パン作りの実演と説明では、世界最大規模を誇る製菓製パン材料メーカーのCSM社のペンツホルン氏とパン屋ベケライ・ダンケの杉山氏が担当。受講者が自分達でもパン作りができるようにと専門的な説明であったため、私には理解できない部分もありました。しかし、その中でも印象に残った話があります。それは、日本においてドイツのレシピ通りに作ってもその通りに作れないことでした。理由は、ドイツと日本では小麦と水が違うからです。日本でドイツパンを本格的に作るならば、役所でどの水を使用しているのか確認するのが良いとのことでした。



参加された会員 佐藤さん

門倉氏の料理教室では、ドイツパンの上に乗せると美味しくいただける料理を4種類伝授して頂きました。門倉氏は、料理の実演をしながら、祖父との思い出を語ってくれました。ライ麦が多く配合されたドイツパンは、酸味があるので、バターを塗る必要があります。ドイツパンの端まで、残すところなくバターを塗らないと祖父から怒られていたと微笑みながら話されていました。今回ドイツパン研究会に参加して、ドイツパンのために尽力している人達の姿から多くの発見や気づきがありました。（青壮年部：大田黒 訓子）

ドイツワイン試飲会レポート

6月29日14時より「ドイツワイン試飲会」がJR新検見川駅前の「はなぞの座」にて開催されました。講師に日本ドイツワイン協会連合会理事の賀久哲郎氏、アシスタントとして伏見ワインビジネスコンサルティングの山本由紀子氏をお迎えし、7種のワインを試飲しながら、歴史、風土、ドイツワインの等級、ラベルの見方、それぞれの食べ物に合うワイン等を説明していただきました。



ワインの解説をされている賀久 哲郎氏

当日はあいにくの雨模様でしたが、12名の参加者（会員11名、非会員1名）が集まり、ドイツワインの見識を深めました。ワインと言えば、フランスやスペイン、イタリアを思い浮かべる方が多いのですが、賀久氏のお話によると近年ではドイツも多くの高品質なワインを生産しており注目を集めているとのこと。試飲会では赤、白、そして-7度以下の環境で凍結保存されたブドウを用いて造られる希少なアイスワイン（伏見ワイン提供）を美味しいドイツパン、チーズ、大山ハム社のハム等と一緒にいただきました。試飲会に参加した友人、ドイツ出身のマデレーン・ベンダさんは、「普段あまりワインを飲む機会はなかったが自国のワインの奥深さに驚いた」と話していました。ドイツワインの知られざる魅力を堪能した試飲会となりました。



試飲したドイツワイン



(運営委員・青壮年部・編集委員 田中 瑛)

日程：①10月3日（木）②10月26日（土）

時間：11:00～12:30

場所：ドイツパンの店 タンネ
(中央区日本橋浜町2-1-5)

定員：各回とも先着10名

参加費：1,500円（税別）

お申込みは、希望の日程を明記の上、下記宛にメールまたはお電話にてお申し込みください。

千葉県日独協会・事務局長
杉田房之

Mail:sugita-f@tbz.t-com.ne.jp

電話：080-5508-0688



ご参加いただく方には、改めて集合場所・時間をご連絡致します。

10月3日はドイツ統一記念日のため一部のパンが約40%引きになります！

(理事・青壮年部・編集委員:土屋 有里、本間 実里)

書籍/Buch

ヘッセの水彩画本書ではヘルマン・ヘッセが描いた美しい色調の水彩画を多数紹介しています。また水彩画や小説のモデルとなった風景の写真、ヘッセの三男であるマルティンによって撮影された数々の写真、そして詩や小説等の抜粋を随所に用いて、全体が自伝のように編集されています。ヘッセについて書かれたエッセイには、彼が第一次世界大戦中に戦争捕虜のために活動していた記述があり、大変印象的です。ヘルマン・ヘッセの動植物、自然、そして平和を愛する心に触れながら、彼の足跡をたどることができます。CORONA BOOKS 平凡社 刊 Amazon ¥1,728



(理事・青壮年部・編集委員:本橋 緑)

今後の青壮年部企画

食べ歩き会<ドイツパンの店 タンネ>

気軽にドイツの味を楽しみに行きませんか？第1回目企画は日本橋浜町にあるドイツパンの店タンネです。最寄り駅の賑わいから少し離れた一角に佇む素敵なお店に入ると、焼き立てパンの良い香りに包まれます。豊富な種類のパンとドイツ人店員さんを目の前に、日本にいることを忘れてしまいそうになります。



今回は、店内のカフェスペースにて当協会向け特別ランチ（ワンドリンク付き）をご提供いただけることになりました。こだわりのハムソーセージ、ドイツチーズ、サラダ、パンを是非お楽しみください。



今後の予定

- | | | |
|------------|--------------------|--|
| 9月14日 | ビール祭り | ●詳細は、同封の案内書をご覧ください。 |
| 10月3日、26日 | 食べ歩き会<ドイツパンの店 タンネ> | ●詳細は、上記内容をご覧ください。 |
| 10月5日 | 市川ドイツデー | 時間：11:00-17:00
ニッケルトンプラザ。写真展示 |
| 10月12日、13日 | 習志野ドイツフェア | 時間：11:00-20:00 (13日19:00)
モリスア、写真展示 |

会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、
(株) 京葉ビル管理、(株) 和幸電気工事、
メルセデス・ベンツ日本 (株) 習志野事業所

編集後記

独語-日本語のような文構造が異なる通訳をどのように脳内で行われているのか、竹内さんにお伺いしました。5/30付 ZEIT ONLINEに掲載されていた記事 "Nach dem Regierungskrise in Wien und dem Misstrauensvotum gegen Sebastian Kurz soll die Verfassungsrichterin Brigitte Bierlein die erste Bundeskanzlerin Österreichs werden"に対して脳内では、「オーストリアでの政治危機、そして不信任決議、これはセバスティアン・クルツ氏に対するものです。その末に、憲法裁判官、ブリギッテ・ビアライン氏が、オーストリア初の女性首相となることになりました。」と和訳文化されるのではと語られました。極力、独文の構造を生かしつつ、スピーディに自然な和訳化する非常に高度な言語処理をされるのだなと感激しました。原文から訳出するのに遅れない為に訳出可能などところから速攻で訳すなど語学のF1と思いました。勝見 浩明